

るんびに

第八十七号

楊林山 正 光 寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

今回も『るんびに』は引き続き、六月十日の納骨堂永代経法要のご講師 栖雲深泥(すくもじんてい)師の御文章を通してのお話の三話目を紹介させて頂きます。

③ 王舎城の悲劇「猶存在耶(ゆうぞんざいや)」

観無量寿経に「猶存在耶(なお存在するやいなや)」という言葉があります。これは、どういう箇所におかれているかと言つと、王舎城の王となつた阿闍世がお父さんを閉じこめます。そして、門番に「一切水も食べ物も与えてはならん」と命じます。そして当然食べ物も飲み物も無い訳ですから、日にちが経つと、お父さんは牢の中で飢え死にをしていくはずであります。ところが奥さんの韋提希さんが、体に蜜を塗つたり、団子を粉にして体に塗つたりして、自分の夫に何とか水分を与え、食べ物を与えていこうとする。門番は、元女王ですからいくら息子(阿闍世)に言われてもお母様が来れば通す。当然の如く、死ぬはずの王は、生きながらえるわけです。ところが肝心の阿闍世は、お母さんがそんな事をしているとはまっ

たく知りませんから、4日たち5日たつと「もうさすがの親父でも、死んでおるだろう」と思つて牢に行く。そして、門番に尋ねる言葉が「猶存在耶」です。

早く言えば「まだ生きとるか」という事です。裏を返せば「もう死んだか」という言葉です。こういう言葉が観無量寿経に書かれています。これはある意味、息子が門番に「父親が死んだか?生きとるか?」と聞くわけですから非常に残酷な言葉でありましょう。だけでも、みなさん、これはお経だけの話でしょうか、王舎城だけの話か、私自身、今日まで生きてきて何遍この言葉に出会ってきたかということですよ。

義兄との間に

一つには、私が養子に入った広島のお寺で、三カ月後にその寺の息子(妻の兄)さんが刑務所から出所されてこられた。その義理の兄は、背中一面に入れ墨を入れ、両方の小指は無く、しかも前科八犯という状態でした。それでもなお私自身、くれた事もあるし、くれた人の気持ちも体験から理解できる。そんな思いで兄との生活が始まっていくのですが、それからが地獄でした。まさに毎晩毎日の様に両親を殴る蹴る。つまり、遊びに行くとお金を出せと言う。お父さんお母さんは泣きながら「お金はない、お前の為にこれだけ使ったんだ。だからお前に渡すお金は無い」と言う。そして、私が止めに入ると「この親は誰の親じゃ」と叫ぶから「お兄さんの親でしょ」と言う。「俺の

親を俺がどうしようが、よそ者が口出しするな」と言われる。それでもあまりに酷い時に、また間に入ると「邪魔するならお前も殺したるぞ!」と叫ぶ。まさに鬼の形相で、しかも眉にまで入れ墨をしているもんですから、その顔はとっても怖い。それでも私は、広島県庁に出勤しなきゃならん。すると県庁に着いたとたん妻から「お兄ちゃんがまた暴れている。お寺じゅうのガラスを叩き割っている」と聞き、早退して帰っていかならん生活が始まりました。

その頃、兄が倒れて救急車で運ばれたと言つたら、また病院に駆けつけてびっくりました。お医者さんからレントゲン見せられると胃袋に歯ブラシと割り箸がはいつてる。「これ何ですか」と本人に聞くと、ケロッとして「刑務所は働かんなんのや、俺は働くのが嫌やから、割り箸と歯ブラシを飲んで、出所してきて動いた時に、それが刺さって倒れた訳です。

その時「すぐに摘出手術をするけれども、こんな状態では長生きされませんよ」と医者が言いました。私は「先生、何とか兄を助けて下さい」と、確かに口でも言ったし頭も下げた。だけど内心は違う。「死んでくれたら妻も両親もわしもどんだけ助かるやろか」と、まさに「猶存在耶」です。本当は口で殺して下さいと言いたかった。だけど私は、それを言わずに「よろしくお願いします」と頭を下げた。

それから3ヶ月後には兄は殺人事件を起こし、

→裏面へつづく

お父さんはショックで倒れ、義理の兄が暴力団で人殺しでは困ると言われて県庁を辞めた。さらに寺に帰って坊主として生きていこうとしたら、門徒さんが「人を殺す様な兄弟さんがおられるお坊さんにお経を読んで欲しくない」と言われる。すると全く収入が無いんです。それでも、父の病院から毎月入院費の請求が来る。そしたらどうしたらいいのかという事です。それこそ私は、養子として顔にも口にも出ませんが、腹にあったのは「いったいいつまでこの状態が続くのか」ということ、そして父の病院に行けば、意識はないんですけども機械が動いとる。つまり生きとるという事です。今月も入院費を作らなならんという事です。まさにそれが「猶存在耶」でした。

◆納骨堂永代経法要
六月十日(水) 午後二時～四時
ご講師 栖雲深泥師

◆常例法座
七月十日(金) 午後二時～四時
ご講師 森川晋乗師

◆正信偈を学ぶ会
毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分

六月十日の納骨堂永代経法要にはどなたでもお参り頂けます。皆様お誘い合わせてご聴聞下さい

*毎月第三土曜日の午後二時～三時半は、「正信偈を学ぶ会」を致します

月	日	曜日	時間	法要名	御講師
一月	一日	木	午前十時～十一時	修正会	当山 住職 波多 正文
二月	十日	土	午後二時～四時	常例法座	本願寺派布教使 小林 顕英師
三月	二十日	土	午後二時～四時	涅槃会 (お釈迦様が浄土に生まれた日)	本願寺派布教使 吉川 光城師
四月	一日	土	午後二時～四時	春季彼岸法要	本願寺派勸学 中西 智海師
五月	十日	日	午後二時～四時	花まつり法要 (お釈迦様のお誕生日)	本願寺派布教使 藤栄 行信師
六月	十日	水	午後二時～四時	宗祖降誕会 (親鸞聖人のお誕生日)	本願寺派布教使 阿部 信幾師
七月	十日	金	午後二時～四時	納骨堂 永代経法要	樹浅陽舎舎幹 栖雲 深泥師
八月	十六日	日	午後二時～四時	常例法座	本願寺派布教使 森川 晋乗師
九月	十三日	日	午後二時～四時	お盆法要	本願寺派布教使 藤田 徹文師
十月	未定		午後二時～四時	秋季彼岸法要	本願寺派布教使 貴島 信行師
十一月	七日	土	午後二時～四時	常例法座	未定
十一月	七日	土	午後六時～八時	報恩講法要	本願寺派布教使 谷川 弘顕師
十二月	八日	日	午後二時～四時	成道会 (お釈迦様がさとられた日)	本願寺派布教使 谷川 弘顕師
十二月	十日	木	午後二時～四時	成道会 (お釈迦様がさとられた日)	樹浅陽舎舎幹 栖雲 深泥師

平成二十一年度 年回表

- 一 周忌・・・平成二十年亡
- 三 回忌・・・平成十九年亡
- 七 回忌・・・平成十五年亡
- 十三 回忌・・・平成九年亡
- 十七 回忌・・・平成五年亡
- (二十三回忌・・・昭和六十二年亡)
- 二十五回忌・・・昭和六十年亡
- (二十七回忌・・・昭和五十八年亡)
- 三十三回忌・・・昭和五十二年亡
- 五十 回忌・・・昭和三十五年亡
- 百 回忌・・・明治四十三年亡
- 百五十回忌・・・万延一年亡
- 二百回忌・・・文化七年亡
- 三百回忌・・・宝永七年亡

浄土真宗本願寺派

楊林山 正光寺

〒六六〇一〇八二八

尼崎市東大物町一―三―七

TEL (06) 6481-3253

